

東日本大震災からの復興に関連した研究の開始について

(財) 環日本海環境協力センター（NPEC）では、これまで開発してきたリモートセンシング技術を活用し、東日本大震災により被害を受けた宮城県内の藻場（多様な生物の生息域となる）の被害状況を把握する研究を東京大学等との共同で、平成26年3月までの約3年間で実施します。

最初の活動として、平成23年10月18日から3日間、宮城県南三陸町の志津川湾で、船舶からの水中カメラ撮影及び音響計測等により藻場の状況を調査しました。

今後、震災前後の人工衛星リモートセンシング画像等とあわせて解析し、藻場の復元が必要な場所等を示す藻場被害状況・復元支援マップ等を作成する研究を進めてまいります。

本研究によりリモートセンシングによる藻場の状況把握の有効性が確認されれば、NPECが従来フィールドとしてきた日本海・黄海でも本研究の成果を利用していくことが期待されます。

志津川湾における調査の様子



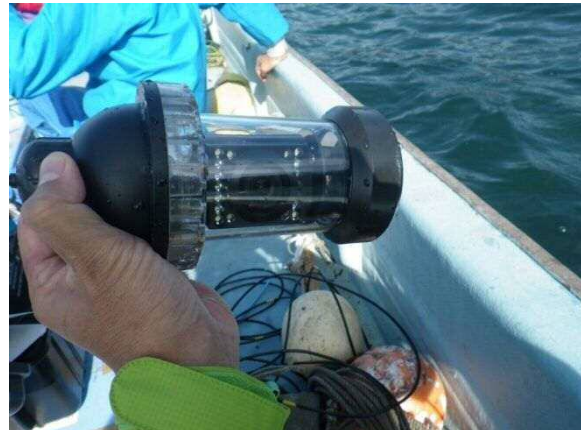
チャーター船で出港



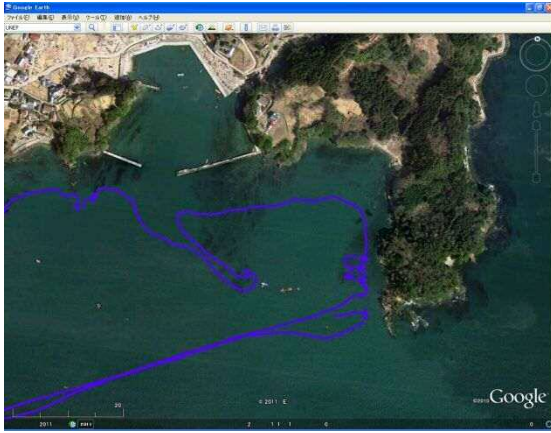
音響計測による調査



水中カメラの操作風景



水中カメラ



荒砥崎西側

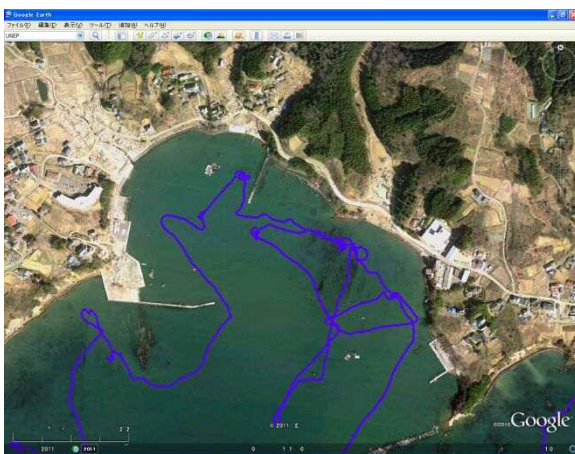
以前はアワビ畜養漁場であった

アラメを確認



荒砥崎西側

津波の影響で地面が露出し、木は枯れている。



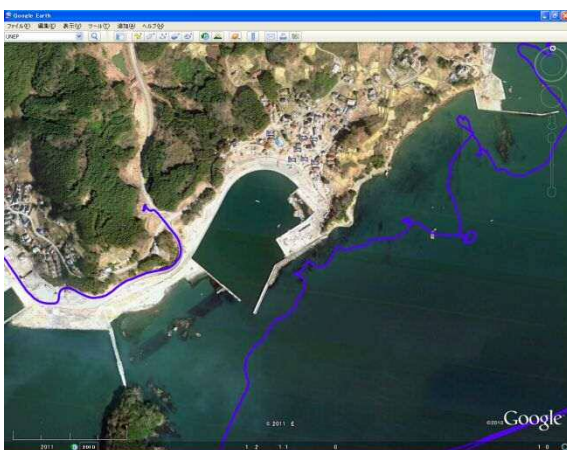
伏房崎西側

スガモ、アマモおよび小型海藻を確認



伏房崎西側

漁港内では海藻は認められなかった



漁協下の漁港

アラメとスガモを確認



漁協下の漁港

アラメとスガモを確認